

しげのぶ清愛園地域連携推進会議議事録

- 1 日 時 令和 7 年 6 月 25 日 (水)
午前 10 時 00 分～午前 10 時 30 分
- 2 場 所 東温市田窪 2119 番地 1
しげのぶ清愛園 大会議室
- 3 出席役員 構成員
久保 洋美、白石 哲一、松本 幸恵
菅野 邦彦、小笠原 瞳
施設職員
近藤 修、篠森 敦、宮村 英二、藤川 優作
(欠席者)
森本 泰誠

愛媛県社会福祉事業団地域連携推進会議規程第 3 条款第 2 項に規定する定足数を充たしていることを確認し、交代のあった構成員（小笠原）の紹介をする。次に、会議規程第 3 条款第 3 項の規定により、議事進行を施設長(園長)にお願いし、議事に入る。

- 4 議 案
 - (1) しげのぶ清愛園 事業と利用者の概要
 - (2) しげのぶ清愛園 運営状況
 - (3) しげのぶ清愛園 事故・ヒヤリハットの状況等
 - (4) しげのぶ清愛園 地域交流の紹介
 - (5) その他

近藤園長 各議案の後に意見等伺うのでよろしく。議案 1 を篠森課長から説明。
篠森課長 事業、利用者の概要について説明。
高齢化、重度化してくる利用者の特性に沿った支援に努める。
外出などの余暇活動の充実を図り、QOL の向上に努める。
市や特別支援学校と連携して交流事業や、障害児タイムケア事業等を実施し、地域の福祉ニーズへの対応と、施設理解の促進に努める。
特記
① 重度障がい者の受入れのため短期入所居室にクッション材の張り付け
② 小松高校、重信中学校の生徒との交流会（野菜収穫の体験や、ボッチャ、卓球バレー等のスポーツで交流を深める。）
③ 余暇充実のため、動物園、工場見学、スポーツ応援等の外出
④ 就労継続支援 B 型事業では、当園のふれあいの店他、市役所、子ども療育センター、中予地方局での定期的な野菜販売

- ⑤ 就労支援事業では、清掃・リネン作業に特化し、1名一般就職。
- ⑥ 清愛園設立60周年を記念して収穫祭の実施。
- ⑦ メンター制度を導入し、新規採用職員等の早期の仕事習得と職場への融合、定着に努めた。

1 年間行事及び月別行事

定例行事、利用者会、誕生会、健診、避難訓練、

2 利用者状況

月別利用者数

施設入所 定員40人に対し、実利用者41人

生活介護 定員44人に対し、実利用者46人（入所33人、通所13人）

就労移行 定員6人に対し、実利用者2人。

就労継続支援B型 定員20人に対し、実利用者23人。

共同生活援助 定員18人に対し、実利用者18人。

3 年齢階層別利用者数

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	計
男性	2	7	6	8	10	10	43
女性	0	7	3	10	10	6	36
計	2	14	9	18	20	16	79

4 就労支援事業及び利用者工賃の状況

(1) 就労移行支援事業 (工賃 一人平均約4,942円/月)

洗濯・清掃等作業事業 BDF事業 喫茶事業 洋裁事業 就労支援

(2) 就労継続支援事業(B型) (工賃 一人平均約21,770円/月)

園芸事業 農産・水耕野菜事業 軽作業 喫茶辞儀業

近藤園長
各構成員

意見・質問を求める。

意見等なし。

近藤園長

議案2を園長が説明。

当園の運営状況について

収入計①409,112,582円の大半は障害者福祉サービス等事業収入となっている。支出については、大半が人件費で243,192,340円、施設建設・改修等積立資産として127,815,000円となっている。社会福祉法人が健全に運営できる平均的な額よりは多くなっているが、これは昨年度から重度障害者支援加算が始まったことによるもの。

近藤園長 意見・質問を求める。
各構成員 意見等なし。

近藤園長 議案3を事務局から説明。

藤川主任支援員 昨年度のヒヤリ・ハット、事故の状況について
昨年度の事故件数210件のうち、一番多い事故レベルは「3-1」の113件となっている。当園では、ミスの報告ではなく、業務改善の機会としてどんな軽微なものでも報告するよう職員に周知している。

事故の多い場面について

1位 居住棟 2位 食堂 3位 多目的ホール

居住棟の居室になると職員の眼が離れてしまう時間が出てくるので多くなる傾向がある。部屋の環境整備や見回り等で減らす努力をする。

事故の多い事例について

1位 暴力行為 2位 転倒 3位 誤薬・誤食

暴力行為がR5年度から倍増している。決まった利用者の報告が多い。全体のシステム作りと、個別の支援方法を考えないと件数が増える一方なので、改善策を一つずつやってみる。

薬の飲み忘れ、飲み違いなどは命にかかわること。確認ミスなど単純なヒューマンエラーが多いのもう一度意識すること。

近藤園長 当園の障害者虐待案件について園長から説明。

1 虐待事案の概要

令和7年3月21日(金)に、清愛園の男性利用者が、他の利用者に対する悪口を話していたと認識した支援員が、「いいかげんにしろ」などの暴言を吐くとともに襟首をつかむという行為を行ったもの。目撃した職員や当該職員に確認を取ったところ、行為を認めたため、施設長から通報に至った。

2 虐待の発生や抑止力が働かなかった要因等

- (1) 職員へのアンガーマネジメントの訓練が不十分であった。
- (2) 職員の、利用者に対する人権や尊厳に対する認識が不十分であった。
- (3) 利用者の特性(独語や他害行為)を事前に予測していれば、感情を抑えた適切な支援が出来ていたと考えられる。

3 再発防止に向けた取り組み

- (1) 管理職や委員会の役割を適切に機能させる。
施設長、課長、係長、サービス管理責任者、虐待防止・身体拘束等適正化・事故防止委員会
- (2) 職員研修、虐待防止・人権尊重意識の醸成を図る。
研修の実施（6/25 アンガーマネジメント研修）、虐待防止チェックリストの活用、利用者呼称（〇〇ちゃんの禁止）の検討、接し方の適正化。
- (3) 職場の環境整備を図る。
意思疎通、利用者情報共有の強化、風通しの良い職場作りに努める
- (4) 不適切行為の抑止をする。
利用者支援を行う個所に防犯カメラを導入し、適切な支援が行われていることを確認できる体制を作る。見られていることを意識することで抑止力にもなる。

近藤園長 意見・質問を求める。
各構成員 意見等なし。

近藤園長 議案4を事務局から説明。
藤川主任支援員 地域交流の紹介
道路沿いのふれあいの店で生製品の販売を通じて、お客様として来店いただく地域住民との交流を図る。地域で行われる行事にも積極的に参加する。昨年度は60周年記念の収穫祭を初めて行い、多くの地域の方に来ていただいた。
7/12 しげのぶ清愛園夏祭りの紹介。

近藤施設長 意見・質問を求める。
久保構成員 虐待案件の要因として、昨年度は職員の数足りてないといったことも聞いたが、それは影響していないか。また募集は行っているのか。

近藤園長 移行の事業が休止になったことにより、その職員を生活介護に充足している。9月にも補助職員が入る予定であり、去年より改善している。

白石構成員 地域の行事（清掃等）に参加してくれていて非常に助かっている。今後も交流兼ねて協力頂きたい。

松本構成員 学校事業（キャリアガイド等）での協力ありがたい。
就労選択事業が始まるが何か情報を教えて欲しい。

近藤園長 東温市では取り組んでいるところがない。清愛園も現段階では予定はない。事業団では道後ゆうが取り組む準備をしている。

近藤園長 会議を閉会する旨を告げる。